

# 事務事業分析シート

No1

事務事業名	家庭教育の向上	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	阿部 忠資
		担当者名	佐藤 恵理	内線	3354
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード(18年度)	家庭教育の向上(44—65—25—01)				
事務事業の種類	○新規事業 (○19年度 ○18年度)		○建設事業 ●それ以外の継続事業		
開始年度	●昭和 ○平成	39年度	根拠法令等	「子育てひろば」実施要綱	
終期設定	○有 ●無				
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 (非計画)
行政評価事業体系	分野	産業・教育・文化分野			
	政策	地域に根ざした生涯学習の推進			
	施策	家庭教育の推進			
目的	青少年の健全育成の基盤となる家庭や家族の役割など、家庭教育の在り方を参加者相互で学びあう。				
対象者等	子育て中の親・保護者等				
内容	1 家庭教育学級:家庭での子どものしつけや叱り方、ほめ方、能力の伸ばし方などについて、専門的知識をもつ講師による講義を行なう。(幼児・小学生コース、年2回、各5回、定員:40名) 2 子育てひろば:子育て中の親のグループなどが行う子育てに関する自主的な学習活動に対して、講師・託児謝礼を1グループ年3回まで助成する。 3 子育て通信:年4回、子育てに関するコラムを区報掲載(平成17年度は社会教育指導員が執筆) 4 家庭教育手帳の配付:乳幼児編を母子手帳交付時・就学時健診時に、小学生低学年～中学年編を小学校入学時に、小学校高学年～中学生編を小学校5年生の保護者に配布。 5 就学時健診時子育て講座(わかば教室):新入学児童の全ての親が参加する就学時健診又は新入学児童説明会の際に、あいさつなどの基本的な生活習慣や子どものしつけについて講義を行う。 6 地域子育て教室:平日の午前中に実施している家庭教育学級には、日中仕事をしているなどにより参加しづらい方々も広く参加できるよう、夜間や土日に各地域で家庭教育学級と同様の講座を行い、広く家庭教育の向上に役立てる。(定員:30名)				
経過	1 家庭教育学級:昭和39年度より実施。平成12年度まで3コースだったが、明日の親コースは保健所の事業に統合した。また、必要に応じて小学校高学年・中学校コースを行うこともある。 2 子育てひろば:平成7年度から実施。 3 子育て通信:平成8年度まで3才児全員に「みつばち通信」として子育てハガキを送っていたものが、「子育て通信」として区報に掲載する形式となった。 4 家庭教育手帳の配布:「乳幼児編」・「小学生低学年～編」は平成11年度、「小学校高学年～編」は平成16年より。 5 就学時健診時子育て講座:平成14年度から実施。 6 就学時健診時子育て講座:平成17年度から実施。				
必要性	核家族化、少子化の進む社会環境の変化や、家庭の教育力の低下する中、子どもたちをめぐる様々な問題が起きている。このような状況下、子どものしつけや叱り方、ほめ方、能力の伸ばし方など子どもへの対応を、親や保護者が正しく学びあうことは、家庭教育の向上に役立てられるため必要性は高い。				
実施方法	( <input checked="" type="radio"/> 直営 ) 一部委託 全部委託 ) ( 直営の場合 <input checked="" type="radio"/> 常勤 ) 非常勤 臨時職員 )				

予算・決算額等の推移	(単位:千円)							
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
予算額	2,056	1,864	2,212	1,695	1,598	1,807	1,807	
①決算額(18年度は見込み)	1,148	1,160	1,997	1,410	1,320	1,547		
②人件費						6,840		
【事務分担当】(%)						130		
合計(①+②)	1,148	1,160	1,997	1,410	1,320	8,387	0	
国(特定財源)	0	0	336	322	0	0	0	
都(特定財源)	0	0	0	0	0	0	0	
その他(特定財源)	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源	1,148	1,160	1,661	1,088	1,320	8,387	0	
実績の推移	事項名	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
	家庭教育学級(小学校低学年コース)	45/161名	78/270名	85/356名	41/149名	70/224名	—	—
	家庭教育学級(小・高学年、中1コース)	—	—	—	29/113名	—	—	—
	家庭教育学級(小学生コース)	—	—	—	—	—	71/173名	春 56/122
	(幼児コース)	22/99名	45/160名	53/312名	40/172名	51/185名	38/111名	春 59/131
	参加者数/延人数							
	子育てひろば(実施講座数)	27/1,140名	29/1,094名	36/1,268名	31/1,225名	37/1,584名	34/2438名	
就学時健診時子育て講座 実施校			22校	23校	23校	23校		
地域子育て教室 参加者						117		

# 事務事業分析シート

No2

予算・決算主要項目	節・細節	平成16年度（決算）		平成17年度（決算）		平成18年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費	講師・託児ボランティア謝	1,320	講師・託児ボランティア謝礼	1,539	講師・託児ボランティア謝礼	1,795
	一般需用費	消耗品購入	0	消耗品購入	8	消耗品購入	12
	旅費			交通費(講師)	1	交通費(講師)	3

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値	
①	参加率(家庭教育学級・幼児コース)	37.0	27.6	65.5 (春季のみ)	60.0	参加者数/募集定員
②	参加率(家庭教育学級・小学生コース)	44.8	43.3	61.0 (春季のみ)	60.0	参加者数/募集定員
③	参加率(地域子育て教室)	-	48.8	-	65.0	参加者数/募集定員
④	子育てひろば	37	34	35	38	実施講座
⑤	わかば教室	23	23	23	23	実施校

問題点・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭教育学級は、5回の連続講座として行なっているが、回を追うごとに出席者が減少していく傾向にある。そのため、参加者の興味を最後までいかにつなげていくかを考える必要がある。</li> <li>・わかば教室は、学校によっては「時間を確保するのが難しい」「同様の話を学校側でもしている」等により「やめたい」との声がある。</li> <li>・子育て支援や育児関係事業を行っている部署と十分な連携がとれていない。また区内の子育てサークルやNPOなどの外部団体の把握が出来ていない。</li> </ul>
他区の実施状況	( 実施 22 区 未実施 区 )

問題点・課題の改善策検討		
	平成19年度に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	家庭教育学級・・・講義終了後などに受講者同士の意見交換の機会を設けるなど、受講生同士の交流を促す。	講座に連続して参加する意欲が生まれるとともに、仲間づくり、サークルづくりのきっかけや後押しとなり、自主的に学び合える体制作りにつながる。
②	わかば教室・・・学校側と協議の上、実施方法を検討する。	効率的な事業運営が行える。
③	子育て支援や育児関係の事業を行っている部署との役割分担や連携、区内の子育てサークルやNPOなどの外部団体との連絡会などを実施し、連携・情報交換を行なう。	家庭教育に関してポイントを絞った企画ができたり、他の部署でお互いにカバーするような事業をするなど子育て支援の充実がはかれる。

事務事業の優先度	優先度についての説明・意見等
B	家庭教育は、すべての教育の出発点であり、重要である。

議会（要旨）質問状況	
------------	--

# 事務事業分析シート

No1

事務事業名	青少年委員事務費	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	阿部 忠資
		担当者名	市山 正昭	内線	3351
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード(18年度)	青少年委員事務費(44-15-33-01)				
事務事業の種類	○新規事業 (○19年度 ○18年度)		○建設事業	●それ以外の継続事業	
開始年度	●昭和 ○平成	33年度	根拠	荒川区青少年委員の設置に関する規則	
終期設定	○有 ●無	年度	法令等	荒川区青少年委員の任期の特例に関する規則	
実施基準	法令基準内	都基準内	(区独自基準)	計画区分	計画 (非計画)
行政評価事業体系	分野	産業・教育・文化			
	政策	地域に根ざした生涯学習の推進			
	施策	生涯学習活動の支援			
目的	地域住民の中から委員を選出し、行政と区民が一緒になって青少年の健全育成活動をすすめていく。 具体的には、下記の項目を大きな柱としている。 ①地域の子ども会・青少年団体が行う事業等への協力 ②教育委員会の青少年教育事業について協力や実施 ③青少年教育事業の独自実施 ④行政、学校、PTA、地域の連携促進 ⑤学校校庭の利用促進 ⑥その他				
対象者等	①地域の子どもたち ②地域の青少年関係団体(荒川区少年団体指導者連絡会、荒川区青年団体連合会、青少年対策地区委員会等) ③小・中学校PTA				
内容	【委員数】現員40名 【身分】地方公務員法に定める特別職(非常勤職員) 【委嘱】青少年の余暇指導及び青少年団体の育成に直接携わり、かつ、相当な実績をあげつつある者を委嘱する。 【任期】2年間 【対象年齢】委嘱時に満60歳未満の者 【対象者】区内在住・在勤者 <荒川区青少年委員連絡会>・・・委員の自主組織(会長、副会長2名、会計2名、会計監査3名) 【専門部会】総務部会、調査研修部会、広報部会 【実践部会】少年団体育成部会、青年団体育成部会、校庭及び施設利用部会 【地域部会】南千住、荒川、町屋、尾久、日暮里・・・地区委員会事業への協力等				
経過	<制度の変遷> S28 東京都青少年委員制度設置(総数265名:各区市町村から約5名選出、1地域500名で1名) S30 各小学校区から1名を推薦・委嘱(総数500名余、任期2年) S33 東京都荒川区青少年委員の設置に関する規則制定 S39 地方自治法一部改正により、事務が各区市町村に移管 H14 選考基準の改訂により、平成14・15年度期より在任期間を5期から6期まで再任可となった。				
必要性	青少年の余暇指導や青少年団体の育成に携わった経験を持つ青少年委員の活動は、子どもたちを含めた地域の連携促進に一役かっており、青少年の健全育成を図っていく上で、また、行政と地域の子どもたちとのパイプ役としての役割は大変大きく必要性は高い。				
実施方法	(直営) 一部委託 全部委託 ) (直営の場合 常勤 (非常勤) 臨時職員 )				

予算・決算額等の推移	(単位:千円)							
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
予算額	5,727	5,354	5,785	5,529	5,822	5,314	5,771	
①決算額(18年度は見込み)	5,471	5,066	5,435	5,181	5,526	4,963	5,732	
②人件費						8,016		
【事務分担当】(%)						93		
合計(①+②)	5,471	5,066	5,435	5,181	5,526	12,979	5,732	
国(特定財源)	0	0	0	0	0	0	0	
都(特定財源)	0	0	0	0	0	0	0	
その他(特定財源)	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源	5,471	5,066	5,435	5,181	5,526	12,979	5,732	
実績の推移	事項名	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
	小学校対抗ピロポロ大会(チーム数)	—	—	8	—	10	6	10
	青少年委員連絡会の実施事業数	15	15	15	13	13	13	13
	青少年委員連絡会の応援事業数	29	29	29	32	31	31	31

事務事業分析シート

No2

節・細節	平成16年度（決算）		平成17年度（決算）		平成18年度（予算）		
	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	
予算・決算の内訳	報酬	委員報酬	3,960	委員報酬	3,960	委員報酬	3,960
	報償費	研修会講師謝礼	0	研修会講師謝礼	0	研修会講師謝礼	23
	職員旅費	宿泊研修会関係	34	宿泊研修会関係	47	宿泊研修会関係	60
	特別旅費	宿泊研修会関連委員旅費	200	宿泊研修会関連委員旅費	169	宿泊研修会関連委員旅費	245
	特別旅費	その他事業委員旅費	94	その他事業委員旅費	48	その他事業委員旅費	117
	食糧費	委嘱式賄	39	退任式賄	40	委嘱式賄	41
	食糧費	定例会賄	35	定例会賄	44	定例会賄	46
	食糧費	委員研修賄	8	委員研修賄	0	委員研修賄	4
	一般需用	事務用消耗品等	129	事務用消耗品等	114	事務用消耗品等	130
	一般需用	青少年委員だより	150	青少年委員だより	149	青少年委員だより	223
	一般需用	委員用ユニホーム	458			委員用ユニホーム	420
	役務費	委員保険料	20	委員保険料	60	委員保険料	61
	委託料	研修会講座業務	23				
	使用料	宿泊研修会バス借上	193	宿泊研修会バス借上	184	宿泊研修会バス借上	260
	使用料	日帰り研修会施設使用料	13	宿泊研修会施設使用料	16	日帰り研修会施設使用料	11
	負担金	都連合会分担金	108	都連合会分担金	108	都連合会分担金	108
	負担金	少年キャンプ引率参加費	62	少年キャンプ引率参加費	24	少年キャンプ引率参加費	62

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値 (22年度)	
標	① 小学校対抗ピロポロ大会 (校)	9	5	10	12	区立小学校数（23校）
	② 参加（関連）事業総数 (事業)	44	44	44	44	主催及び応援事業数
	③					

問題点・課題	①委員数や在任期間、選任方法 (参考) 体育指導委員45名、任期2年(8期16年、特例で最長10期20年) ②青少年課題にそった事業のあり方 ③連絡会の組織体制
他区の実施状況	(実施 21 区 未実施 1 区) 平成16年度現在の委員数 千代田23名、中央24名、港24名、文京31名、台東39名、墨田33名、江東45名、品川35名、目黒42名、大田64名、世田谷64名、渋谷35名、中野42名、杉並41名、豊島24名、北77名、板橋59名、練馬71名、足立72名、葛飾49名、江戸川区62名 ※新宿区は平成16年度から青少年委員の配置が無くなった。

問題点・課題の改善策検討		
	平成19年度に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	今期(平成18~19年度)については、委員数40名、在任期間最長6期(12年)で委嘱を行った。来期に向けて在任期間や選任方法について検討する。	委員の資質向上や出席率の向上が期待できる。
②	現在の青少年課題について、他区の青少年委員の活動状況を踏まえ、また連携をしながら、事業について検討する。	現状にあった事業を推進でき、他区の青少年委員との連携が図れる。
③	実践部会、専門部会、各ブロックの組織体制について現状を踏まえながら検討する。	現状にあった組織体制にすることで、活動の円滑化が図れる。

事務事業の優先度	優先度についての説明・意見等
C	青少年の健全育成のために寄与している。

況議(要)会(質)問(状)	
---------------	--

# 事務事業分析シート

No1

事務事業名	一輪車大会	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	阿部 忠資
		担当者名	市山 正昭	内線	3351
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード(18年度)	一輪車大会(44-15-66-01)				
事務事業の種類	○新規事業 (○19年度 ○18年度)		○建設事業	●それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成	3年度	根拠		
終期設定	○有 ●無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	(区独自基準)	計画区分	計画 (非計画)
行政評価事業体系	分野	産業・教育・文化			
	政策	心身ともに健やかな子どもの育成			
	施策	体験活動の推進			
目的	①区内小学生が日頃取り組んでいる一輪車の大会を行うことにより、校庭利用の活性化や子どもたちの健やかな成長等に寄与する。 ②練習成果を発揮したり、チームで競技に取り組む充実感を体験したりすることにより、向上心や、新たな仲間づくりの気持ちを高め、子どもたちの健全育成に寄与する。				
対象者等	区内に在住・在学する小学生(1~6年生)				
内容	<平成17年度(第15回)> 【日時】平成17年9月3日(土)午前9時~午後0時45分 【会場】区民運動場 【種目】①まっすぐ50m走 ②まっすぐ100m走 ③トラック1周200m走 ④スラローム(中級) ⑤障害物走 ⑥400mリレー 【運営】運営者数69人(内訳⇒青少委29、職員8、体指11、荒青連5、荒少連シニア4、ボランティア12) 【概況】申込者183人(区立小学校全校(23校)から参加申込みがあった(参加校は21校)。区外小学校の児童2人)				
経過	S63 青少年委員連絡会は「子どもと楽しく遊ぶ研修会」の一環として、「一輪車の乗り方教室」を実施。 H3 「第1回荒川区一輪車大会」の開催に至り、大会は、平成17年度で第15回目である。 H12 一輪車大会とリバーサイドマラソンは、体育指導委員と事業協力し相互に派遣しあう形となった。 H14 東京都トラック協会荒川支部青年部により、平成14年度から参加賞などの購入経費について協賛を受けている。(17年度:①参加賞「文具セット」②銀メダル)				
必要性	平成17年度の第15回大会についても、前大会と同数の応募があり、一輪車に根強い人気があることが判明した。また、普段の練習の成果を大舞台で発揮し、友人とともにレース結果に喜んだり泣いたりすること等が、子どもたちの健やかな成長に大きく寄与している大会であるため必要性は高い。				
実施方法	(直営) 一部委託 全部委託 ) (直営の場合 (常勤) (非常勤) 臨時職員 )				

予算・決算額等の推移	(単位:千円)							
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
予算額	173	166	131	124	120	120	120	
①決算額(18年度は見込み)	134	126	124	109	118	120	110	
②人件費						690		
【事務分担当】(%)						8		
合計(①+②)	134	126	124	109	118	810	110	
国(特定財源)	0	0	0	0	0	0	0	
都(特定財源)	0	0	0	0	0	0	0	
その他(特定財源)	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源	134	126	124	109	118	810	110	
実績の推移	事項名	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
	区立参加小学校数(校)	19	19	22	21	22	21	23
	参加者(人)	143	114	159	151	170	162	180
	*区立小学校数							
	12~14年度24校、15~18年度~23校							

# 事務事業分析シート

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成16年度（決算）		平成17年度（決算）		平成18年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	食糧費	運営者賄	14	運営者賄	14	運営者賄	14
	一般需用	参加賞	40	参加賞	40	参加賞	42
	一般需用	優勝メダル	33	優勝メダル	31	優勝メダル	34
	一般需用	事務用用品	31	事務用用品	35	事務用用品	30

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値 (22年度)	
①	参加者数(人)	170	162	180	200	大会当日参加者数
②	区立参加小学校率(%)	95.7	91.3	100.0	100.0	参加校数/区立小学校数
③						

問題点・課題	<p>一輪車大会は、小学生の健全育成の場であると同時に、スポーツの競技会としての性格を持っている。青少年委員は、競技性を持つ大会の運営にあたり、研修などを重ねるとともに、体育指導委員の協力を得て実施する必要がある。そしてこの大会を実施するにあたり、運営ボランティアを活用して実施することも、この大会のもう一つの目的でもあるが、まだ十分とはいえない状況にある。</p>
他区の実施状況	<p>（実施 0 区 未実施 22 区）</p> <p>&lt;参考&gt;足立区には、体育協会の構成団体として足立区一輪車連盟があり、毎年1月に「全日本一輪車大会」を主催している。レースは「小学生」「中学生」「一般」の部により行われており、以前には、本区の小学生も参加したことがある。</p>

問題点・課題の改善策検討		
	平成19年度に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	競技性のある大会の運営に向けての研修と、体育指導委員との協力について検討する。	事業運営がスムーズに行えるようになり、運営上のトラブルが少なくなる。
②	過去に選手として参加した学生が運営ボランティアとして参加しているが、1回だけで終わってしまうケースが多いため、毎回参加してもらえよう働き掛ける。	中高生のボランティアが増えることによって、団体活動の体験とともに一輪車大会の運営のノウハウが活かせる。それに伴い運営者の連携が図れ、大会運営がスムーズに進む。
③		

事務事業の優先度	優先度についての説明・意見等
B	子どもに多様な体験をさせる意味で、優先度が高い。

議会（要旨）質問状況	
------------	--

# 事務事業分析シート

No1

<b>事務事業名</b>	優良青少年団体、個人表彰	<b>部課名</b>	教育委員会社会教育課	<b>課長名</b>	阿部 忠資
		<b>担当者名</b>	木佐美祥治	<b>内線</b>	3355
<b>事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード</b>	優良青少年団体、個人表彰（44-20-50-01）				
<b>事務事業の種類</b>	○新規事業（○19年度 ○18年度）      ○建設事業      ●それ以外の継続事業				
<b>開始年度</b>	●昭和 ○平成	46年度	<b>根拠法令等</b>	優良青少年団体・個人表彰実施要領	
<b>終期設定</b>	○有 ●無	年度			
<b>実施基準</b>	法令基準内	都基準内	区独自基準	<b>計画区分</b>	計画（非計画）
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	産業・教育・文化			
	<b>政策</b>	地域に根ざした生涯学習の推進			
	<b>施策</b>	生涯学習活動の支援			
<b>目的</b>	日常活動が特に優れている青少年団体及び団体活動に貢献してきた個人を表彰し、広くこれを紹介することにより、青少年団体の健全育成と発展に寄与する。				
<b>対象者等</b>	1 日常活動が特に優れている青少年団体 2 団体活動に貢献してきた個人				
<b>内容</b>	<実施方法> 1 青少年団体の連合会会長に表彰候補者の推薦依頼 2 青少年委員連絡会の役員及び青少年団体育成部長により組織する審査委員会の開催 3 審査会の決定を基に、教育長が決定する <審査委員会> 青少年委員連絡会から7名(会長、副会長2名、会計2名、青年団体育成部長、少年団体育成部長)				
<b>経過</b>	昭和40年 長谷川賞が前身(初代 教育委員会 教育委員 長谷川伊三郎氏が資財を投じて設置) 昭和46年から教育委員会表彰となる				
<b>必要性</b>	青少年団体とその団体活動に貢献してきた個人への表彰は、それまでの活動を賞賛するばかりか、その後の活動にも多岐に励みになっている。低迷する青年団体の活動を元気づける意味でも、この表彰の意義は大きい。				
<b>実施方法</b>	( 直営 ) 一部委託 全部委託      ( 直営の場合 ) ( 常勤 ) 非常勤 臨時職員 )				

	(単位:千円)							
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
<b>予算・決算額等の推移</b>	44	36	35	33	33	33	25	
①決算額(18年度は見込み)	35	19	16	23	23	23	25	
②人件費						517		
【事務分担量】(%)						6		
合計(①+②)	35	19	35	33	23	540	25	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	35	19	35	33	23	540	25	
<b>実績の推移</b>								
	<b>事項名</b>	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
	記念品	賞状・楯	賞状・額	賞状・額	賞状・楯	賞状・楯	賞状・楯	

# 事務事業分析シート

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成16年度(決算)		平成17年度(決算)		平成18年度(予算)	
		主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)
	11(2)食糧費	審査会賄 1,080	1	審査会賄 1,080	1	審査会賄 1,080	2
	11(4)一般需用費	記念品 11,628	12	記念品 11,670	12	記念品 12,960	13
	12 役務費	表彰状筆耕 9,450	10	表彰状筆耕 9,450	10	表彰状筆耕 9,450	10

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値	
①	団体表彰	1	1	1	2	
②	個人表彰	2	2	2	2	
③						

問題点・課題	<p>○以前、この優良青少年表彰は教育委員会褒賞や文化青少年課の青少年表彰との統合が検討されたが、対象が異なるために調整は困難であった。</p> <p>○ここ数年、青少年団体、とりわけ青年団体そのものに表彰すべき候補者が少なくなっている。団体の実情は、団体及び会員の減少はもとより、活動できる会員の絶対的な不足など、組織的にかなり厳しい状況に追い込まれている。優良青少年表彰のもつ意義は今後も変わらないとしても、このことがこの事業を継続する上で大きな課題となっている。</p>
他区の実施状況	( 実施 区 未実施 区 )

問題点・課題の改善策検討	
①	平成19年度に取り組む具体的な改善内容
①	新たな団体の加盟を積極的に促し、表彰に値する団体の育成に努める。
②	低迷する青年団体活動の活性化を図る。
③	

事務事業の優先度	優先度についての説明・意見等
C	青少年の健全育成のために寄与している。

議会(要旨)質問状況	
------------	--



# 事務事業分析シート

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成16年度(決算)		平成17年度(決算)		平成18年度(予算)	
		主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)
	8報償費		0		0	研修会講師謝礼26,000	26
	9(1)職員旅費		0		0		0
	9(2)特別旅費		0		0		0
	11(2)食糧費		0		0		0
	11(4)一般需用費		0		0	事務用消耗品 5,000	5
	14使用料及び賃借料		0		0	研修会場使用料 3,000	3

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値	
①	参加者数	—	15	15	15	
②						
③						

問題点・課題	青年団体とその会員の減少、さらに連合会役員たちの多忙などにより、宿泊を伴う研修を実施することがだんだん困難な状態になっている。青年団体の組織率のアップや団体の運営については抜本的な対策が必要である。
他区の実施状況	( 実施 区 未実施 区 )

問題点・課題の改善策検討		
	平成19年度に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	新たな青年団体の加盟促進と、運営を担える会員の獲得と育成の強化。	強いリーダーシップを持ち、しかも運営を担える物理的な時間を持てる会員の獲得により、青年団体の活性化を図る。
②		
③		

施策評価結果(優先度)	優先度についての説明、所属長意見等
C	青年団体リーダーの資質向上を図るため、継続して実施する。

議会(要旨)状況	
----------	--

# 事務事業分析シート

No1

<b>事務事業名</b>	心身障害者青年教室「さくら教室」		<b>部課名</b>	教育委員会事務局社会教育課	<b>課長名</b>	阿部 忠資
			<b>担当者名</b>	成澤 友美	<b>内線</b>	3355
<b>事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（18年度）</b>	心身障害者青年教室（44-30-50-01）					
<b>事務事業の種類</b>	○ 新規事業（○19年度 ○18年度）			○ 建設事業 ● それ以外の継続事業		
<b>開始年度</b>	● 昭和 ○ 平成 41 年度		<b>根拠法令等</b>			
<b>終期設定</b>	○ 有 ● 無 年度					
<b>実施基準</b>	法令基準内	都基準内	区独自基準	<b>計画区分</b>	計画	非計画
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	産業・教育・文化				
	<b>政策</b>	地域に根ざした生涯学習の推進				
	<b>施策</b>	生涯学習活動の支援				
<b>目的</b>	区立中学校心身障害学級卒業生及び在住・在勤の心身障害者に対し、継続的・計画的に講座を開設し、余暇活動の充実とともに、自主性・社会性・協調性を養う。					
<b>対象者等</b>	区立中学校心身障害学級卒業生及び在住・在勤の心身障害者。					
<b>内容</b>	<p>1 年間目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) クラブ活動を通して、実生活に役立つ知識や技能の習得を図るとともに、教養を深め余暇活動の充実を図る。</li> <li>(2) 全員スポーツを通して、健康を維持し体力の増進を図る。</li> <li>(3) 行事では話し合い活動やグループリーダーの活動を通して、自ら考え意見を述べ行動する力を養う。</li> <li>(4) 全活動を通して担任、受講生の交流を図る。</li> <li>(5) 保護者や家族との連携を図る。</li> </ul> <p>2 会場 荒川区立第一中学校を中心として活動。</p> <p>3 開催回数 日曜日(4月～2月に実施) 午前9時15分～(年17回) 半日または1日</p> <p>4 事業内容 パソコン・音楽・美術・調理・生花の各クラブ活動、全員スポーツ、水泳実習、校外学習、スポーツ大会、城北ブロック合同レクリエーション大会、お楽しみ会など</p>					
<b>経過</b>	<p>昭和41年度 職業実習科卒業生を対象に開設(年22回)</p> <p>昭和57年度 城北ブロック合同レクリエーション大会開始</p> <p>平成14年度 作品展会場、区役所1階ロビーより町屋文化センターに変更</p> <p>平成18年度 愛称名を「きょうようこうざ」から「さくら教室」に変更</p>					
<b>必要性</b>	生涯学習の機会が少ない心身障害者に対して、社会人として必要な自主性・協調性・社会性・教養を身につけることを支援する事業として必要である。また継続的に講座を行うことで、受講生どうしの交流を支援する事業としても必要である。					
<b>実施方法</b>	(直営 一部委託 全部委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員(民間講師)) ボランティア					

		(単位：千円)						
		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
<b>予算・決算額等の推移</b>	予算額	2,119	1,692	1,735	1,571	1,581	1,623	1,683
	①決算額(18年度は見込み)	1,641	1,325	1,533	1,395	1,441	1,459	
	②人件費						11,433	
	【事務分担量】(%)						205	
	合計(①+②)	1,641	1,325	1,533	1,395	1,441	12,892	0
	国(特定財源)							
	都(特定財源)							
	その他(特定財源)							
	一般財源	1,641	1,325	1,533	1,395	1,441	12,892	0
	<b>実績の推移</b>	<b>事項名</b>	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
	延べ参加受講生数(人)	733	757	660	825	829	885	
	受講生数(人)	63	58	48	61	64	66	63

# 事務事業分析シート

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成16年度（決算）		平成17年度（決算）		平成18年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
			金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）
	報償費	担任等講師謝礼	1,271	担任等講師謝礼	1,300	担任等講師謝礼	1,494
	食糧費	合同レク大会来賓賄	8	合同レク大会来賓賄	0	合同レク大会来賓賄	0
	一般需用	消耗品	98	消耗品	102	消耗品	120
	役務費	申込ハガキ	40	申込ハガキ	35	申込ハガキ	45
	使用料	作品展会場附帯設備	24	作品展会場附帯設備	22	作品展会場附帯設備	24

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値 (22年度)	
標	① 受講生(人)	64	66	66	—	
	② 平均参加率(%)	76	79	79	80	各回参加率合計／開催回数
	③					

問題点・課題	<p>安全面など受講生に配慮した講座を実施するためには、講師（謝礼）が不足している。                  クラブ活動（パソコン・音楽・美術・調理・生花）を実施しているが、受講するクラブの人数にばらつきがあり再編が必要である。                  クラブ活動の内容に見合った講師の補充を行うことも必要である。                  ボランティア等に対し心身障害者への専門的知識の研修等スキルアップの機会も求められている。</p>
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成19年度に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	受講生の人数に合わせた講師数を確保する。	より安全性に配慮した事業が実施できる。
②	現在のクラブ活動も含め受講生のニーズにあった新たなクラブ活動を検討する。	クラブ活動のばらつきが解消できる。
③	ボランティア等への研修を実施し、心身障害者に対する知識や理解を深める。	より充実した活動につながる。

事務事業の優先度	優先度についての説明・意見等
B	在住・在勤の心身障害者の自主性・協調性を養うために優先度の高い事業である。

議会（要旨）質問状況	
------------	--

# 事務事業分析シート

No1

<b>事務事業名</b>	あらかわ青年大会	<b>部課名</b>	教育委員会社会教育課	<b>課長名</b>	阿部 忠資
		<b>担当者名</b>	木佐美祥治	<b>内線</b>	3355
<b>事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード</b>	あらかわ青年大会 (44-35-50-01)				
<b>事務事業の種類</b>	○新規事業 (○19年度 ○18年度)      ○建設事業      ●それ以外の継続事業				
<b>開始年度</b>	●昭和 ○平成	38年度	<b>根拠法令等</b>	荒川区社会教育団体補助金交付要綱	
<b>終期設定</b>	○有 ●無	年度		荒川区補助金等交付要綱	
<b>実施基準</b>	法令基準内    都基準内 <u>区独自基準</u>		<b>計画区分</b>	計画	(非計画)
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	産業・教育・文化			
	<b>政策</b>	地域に根ざした生涯学習の推進			
	<b>施策</b>	生涯学習活動の支援			
<b>目的</b>	青年たちの交流の場を提供し、青年活動及び青年団体活動の活性化を図る。				
<b>対象者等</b>	区内在住・在勤・在学の青年一般				
<b>内容</b>	<p>&lt;平成16年度&gt; 第42回あらかわ青年大会「あらかわ街まつり」 実施日:平成16年7月19日(祝) 会場:町屋尾竹橋通り(荒木田交差点~町屋駅前交番) 内容:尾竹橋通りを交通止めにして、よさこいソーランをはじめ、かつぼれやサンバなどのパレードを実施 参加者:区民一般</p> <p>&lt;平成17年度&gt; 第43回あらかわ青年大会「あらかわ路まつり」 実施日:平成17年10月30日(日) 会場:あらかわ遊園・アリスの広場、荒川遊園通り 内容:アリスの広場を主会場に、よさこいソーランをはじめ、かつぼれや神輿などのパレードやパフォーマンスを実施 参加者:区民一般</p>				
<b>経過</b>	<p>&lt;平成10年度&gt; フレンドシップ神津島</p> <p>&lt;平成11年度&gt; バンド、フリーマーケット、耐久レース</p> <p>&lt;平成12年度&gt; バンド、フリーマーケット、耐久レース、タイムカプセル</p> <p>&lt;平成13年度&gt; フレンドシップ神津島</p> <p>&lt;平成14年度&gt; あらかわ路まつり 尾久小学校校庭及び熊野前商店街</p> <p>&lt;平成15年度&gt; あらかわ路まつり 町屋尾竹橋通り(荒木田交差点~町屋駅前交番) 雨天中止</p> <p>&lt;平成16年度&gt; あらかわ街まつり 町屋尾竹橋通り(荒木田交差点~町屋駅前交番)</p> <p>&lt;平成17年度&gt; あらかわ路まつり あらかわ遊園・アリスの広場及び荒川遊園通り</p>				
<b>必要性</b>	いまでも昔も、青年大会は青年団体にとって最も重要な一大ビッグイベントである。他の事業と同様、現在の青年大会は青年団体の自主事業になっており、区の財政的な支援なしの開催はあり得ない。				
<b>実施方法</b>	( <u>直営</u> 一部委託 全部委託 )      ( 直営の場合 <u>常勤</u> 非常勤 臨時職員 )				

	(単位:千円)						
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
<b>予算・決算額等の推移</b>	950	950	950	950	950	950	950
①決算額(18年度は見込み)	950	950	950	950	950	950	950
②人件費						3,879	
【事務分担当】(%)						45	
合計(①+②)	950	950	950	950	950	4,829	950
国(特定財源)							
都(特定財源)							
その他(特定財源)							
一般財源	950	950	950	950	950	4,829	950
<b>実績の推移</b>							
<b>事項名</b>	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
三輪車・フリーマーケット・バンドまつり	300名						
フレンドシップ神津島		204名					
あらかわ路まつり			3,000名	雨天中止	30,000名	1,100名	
(出演団体)			(30団体)		(30団体)	(13団体)	

# 事務事業分析シート

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成16年度(決算)		平成17年度(決算)		平成18年度(予算)	
		主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)
	19 負担金補助 及び交付金	あらかわ青年大会補助 (あらかわ街まつり)	950	あらかわ青年大会補助 (あらかわ路まつり)	950	あらかわ青年大会補助	950

指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移				指標に関する説明
			平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値	
①	出演団体数	30	13	13	15		
②	実行委員数	148	45	45	50		
③							

問題点・課題	<p>&lt;平成17年度&gt; 17年度の青年大会「あらかわ路まつり」は、昨年の町屋・尾竹橋通りを交通止めにして行われたものと比べて、出演団体や参加者などその規模を大幅に縮小して開催された。それは主催者である青年団体自体に活動できる会員が極めて少なくなり、組織実態に見合った大会にしようという配慮があったからである。 にもかかわらず、準備段階の実行委員会では、現在の青年団体が必ずしも組織的に機能していない綻びをしばしば露呈することになった。他団体の多くの協力のもとになんとか大会は無事に終わったものの、主催者である青年団体の中に、昨年のような終わった後の充足感はなかったように見受けられる。 次年度の大会も17年度と同様の内容で実施が予定されているが、いずれにせよ今後の青年大会を実施するに当たって、現在の青年団体が抱える多くの課題を少しでも克服していかなければならないことは確かである。</p>
他区の実施状況	( 実施 0 区                      未実施 22 区 )

問題点・課題の改善策検討		
	平成19年度に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	実行委員会をなるべく早く立ち上げ、出演団体や参加者に早い段階で周知を図ることにより、その後の運営をスムーズに運ぶ。	青年大会当日とその前の実行委員会の運営がよりスムーズに運べる。
②		
③		

施策評価結果(優先度)	優先度についての説明、所属長意見等
C	青年たちの交流の場の提供として、継続して実施する。

議会(要旨)質問状況	
------------	--

# 事務事業分析シート

No1

事務事業名	成人の日のつどい	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	阿部 忠資
		担当者名	成澤 友美	内線	3355
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード(18年度)	成人の日のつどい (44-40-50-01)				
事務事業の種類	○新規事業 (○19年度 ○18年度)		○建設事業 ●それ以外の継続事業		
開始年度	●昭和 ○平成	29年度	根拠	「成人の日の行事について」文部次官通達	
終期設定	○有 ●無	年度	法令等	(昭和31年12月10日)	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 (非計画)
行政評価事業体系	分野	産業・教育・文化			
	政策	地域に根ざした生涯学習の推進			
	施策	生涯学習活動の支援			
目的	成人に達した青年男女の門出を祝福するとともに、成人としての権利と義務及び責任について自覚を促す。				
対象者等	<平成18年度> 昭和61年4月2日～昭和62年4月1日生まれの成人(20歳)に達した青年				
内容	<p>平成17年度</p> <p>第1部</p> <p>①オープニングアトラクション…「FreeStylers MIX&amp;YOSHI」によるバスケットボールとサッカーボールを使用したボールパフォーマンスと、「ビートボックス・マル」による口を使って音を奏でるビートボックスによるパフォーマンス。</p> <p>②記念式典…国歌斉唱、主催者挨拶、来賓祝辞、来賓紹介、主催者紹介、成人の誓い、祝電披露</p> <p>第2部</p> <p>しゃべり場(懇談会)</p> <p>各地区(峡田、尾久、瑞光、日暮里)ごとに実施</p> <p>会場</p> <p>第1部 サンパール荒川大ホール 第2部 3階(小ホール)4階(第2、3集会室)5階(第5、6、7集会室)</p>				
経過	<p>○昭和55年度から新成人を募り「企画運営委員会」を設置。参加者自身の手で「つどい」を作り上げる方式を採用。</p> <p>○平成11年度は新成人の応募が少ないため「企画運営委員会」を設置せず、関係団体より推薦のあった新成人で運営。新成人が司会などを担当。</p> <p>○平成16年度も企画スタッフを募集するも応募は1名のみのため「企画運営委員会」は作れず、関係団体より推薦のあった新成人を4名加え司会等を担当。</p> <p>○平成17年度も応募は少なかったが、関係団体より推薦のあった新成人を含めると9名になったので、「企画・運営スタッフ会」を設置。8回の会議を経て、記念品の選定や、式典の司会・2部の運営などを担当した。</p>				
必要性	新成人の門出を祝福するとともに、成人としての権利と義務及び責任について自覚を促すために必要である。				
実施方法	<p>(<u>直営</u>) 一部委託 全部委託 ) (直営の場合 (<u>常勤</u>) 非常勤 臨時職員 )</p> <p>&lt;平成17年度&gt; 主催：荒川区、荒川区教育委員会、荒川区選挙管理委員会 協力団体等：新成人スタッフ9名(司会、成人の誓い、運営他)、青少年委員27名他</p>				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
予算額	2,772	2,867	3,742	3,602	3,519	2,529	2,529	
①決算額(18年度は見込み)	2,630	2,299	3,225	3,086	2,485	1,931	2,529	
②人件費						4,740		
【事務分担量】(%)						55		
合計(①+②)	2,630	2,299	3,225	3,086	2,485	6,671	2,529	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	2,630	2,299	3,225	3,086	2,485	6,671	2,529	
実績の推移	事項名	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
	対象者(人)	1,970	1,977	2,089	2,037	1,985	1,814	1,790
	参加者(人)	962	984	1,043	1,035	1,053	943	
	参加率(%)	48.8	49.8	49.9	50.8	53.0	52.0	
	記念品	小冊子	ボールペン	写真立て	電波時計	電波時計	フレーム時計	

# 事務事業分析シート

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成16年度（決算）		平成17年度（決算）		平成18年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）	金額（千円）		
8報償費	アトラクション謝礼 200,000	200	アトラクション謝礼 100,000	100	アトラクション謝礼 200,000	214	
11(2)食糧費	ミニ・パーティ賄 600,000	600	ミニ・パーティ賄 107,680	108	ミニ・パーティ賄 100,000	110	
11(4)一般需用費	記念品 1,218,525 他 盛花	1,321	記念品 1,172,850 他 盛花	1,389	記念品 1,500,000 他 盛花	1,817	
	21,000 はがき印刷 53,730		21,000 はがき印刷 51,870		21,000 はがき印刷 60,654		
12 役務費	吊看板・立看板 99,750	100	吊看板・立看板 95,550	96	吊看板・立看板 108,150	109	
14使用料及び賃借料	会場使用料 223,950	264	会場使用料 218,750	239	会場使用料 238,612	279	
	トラック借上げ 39,816		トラック借上げ 19,908		トラック借上げ 39,816		

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値(22年度)	
①	新成人対象者数（人）	1,985	1,814	1,790	—	
②	参加率（%）	53	52	53	55	参加者数／対象者数
③						

問題点・課題	<p>○「企画・運営スタッフ」を新成人より募集するが、ここ数年応募が少ないため新成人による企画・運営が難しくなっている。</p> <p>○記念品や第2部の運営について、その必要性も含めて検討が必要である。</p>
他区の実施状況	<p>（実施 22 区 未実施 0 区）</p> <p>&lt;平成15年度&gt; 【参加率】 千代田区72.7、中央区58.9、港区53.6、新宿区50.3、文京区51.0、台東区49.1、墨田区58.1、江東区58.4、品川区57.4、目黒区48.4、大田区63.8、世田谷区53.4、渋谷区43.2、中野区43.6、杉並区42.6、豊島区36.9、北区56.6、板橋区50.1、練馬区54.7、足立区49.8、葛飾区68.6、江戸川区64.6 【記念品なし】 11区 【実行委員会形式】 10区</p>

問題点・課題の改善策検討		
	平成19年度に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	新成人の募集について、区報及びホームページに掲載するとともに、協力団体や区の関係部署にも依頼する。	新成人による企画・運営ができる。
②	新成人で構成する企画・運営スタッフを中心に、式典・第2部のあり方・記念品について十分な検討をする。	新成人の発想による今の時代に対応した「つどい」を検討できる。また斬新なアイデアが期待できる。
③		

事務事業の優先度	優先度についての説明・意見等
C	成人を祝う事業として継続して実施する。

議会質問状況（要）	
-----------	--

# 事務事業分析シート

No1

<b>事務事業名</b>	少年キャンプ研修会・子ども会交流育成事業	<b>部課名</b>	教育委員会社会教育課	<b>課長名</b>	阿部 忠資
		<b>担当者名</b>	新見 英信	<b>内線</b>	3354
<b>事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（18年度）</b>	少年キャンプ研修会・子ども会交流育成事業（44-45-50-01）				
<b>事務事業の種類</b>	○新規事業（○19年度 ○18年度） ○建設事業 ●それ以外の継続事業				
<b>開始年度</b>	●昭和 ○平成 41年度	<b>根拠法令等</b>	荒川区社会教育団体補助金交付要綱		
<b>終期設定</b>	○有 ●無 年度		荒川区補助金等交付要綱		
<b>実施基準</b>	法令基準内 都基準内 <u>区独自基準</u>	<b>計画区分</b>	計画	<u>非計画</u>	
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	産業・教育・文化			
	<b>政策</b>	心身ともに健やかな子どもの育成			
	<b>施策</b>	体験活動の推進			
<b>目的</b>	集団生活、野外生活を通して子どもたちが協調性、生活能力、チームワークを学習する機会を提供し、また、異年齢のグループ活動を通してリーダーの養成を図る事業を支援する。				
<b>対象者等</b>	少年キャンプ（チャレンジキャンプ） 小学3年生～中学3年生「チャレンジ共和国」参加者を優先 子ども会大会 子ども会に加入している小学生、チャレンジキャンプ参加者				
<b>内容</b>	少年キャンプ（チャレンジキャンプ） 「チャレンジ共和国」最終日に参加者を募集。2～3回の事前準備会において班での役割等を決定する。 平成17年度 1場 所 静岡県立朝霧野外活動センター 2期 間 7月22日（金）～24日（日） 子ども会大会 各子ども会やチャレンジキャンプ参加者を対象に荒少連が直接参加者を募集する。 平成17年度 1場 所 汐入地区ウォークラリー、カレーうどん作り 2実施日 11月27日（日）				
<b>経過</b>	昭和41年度～少年団体指導者（リーダーキャンプ）研修会 昭和62年度～「チャレンジキャンプ」としてリーダーキャンプを同時に実施 平成7年度～子ども会大会実施 平成12年度～荒少連の自主事業としてキャンプと子ども会大会を実施。				
<b>必要性</b>	子どもたちが協力して自ら身の回りのことをすることや、野外活動やウォークラリー等の冒険をすることは、社会力不足・体験不足が叫ばれる昨今の子どもたちにとっては有意義かつ貴重な体験の場として必要である。				
<b>実施方法</b>	（ <u>直営</u> ） 一部委託 全部委託 （直営の場合 <u>常勤</u> 非常勤 臨時職員） 少年キャンプ 主催：荒川区少年団体指導者連絡会 後援：荒川区教育委員会 協力：青少年委員連絡会 子ども会大会 主催：荒川区少年団体指導者連絡会 後援：荒川区教育委員会 協力：青少年委員連絡会				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
予算額	1,768	1,275	1,271	1,272	1,742	1,278	1,298	
①決算額（18年度は見込み）	1,745	1,270	1,270	1,271	1,741	992	1,298	
②人件費						172		
【事務分担量】（%）						2		
合計（①+②）	1,745	1,270	1,270	1,271	1,741	1,164	1,298	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	1,745	1,270	1,270	1,271	1,741	1,164	1,298	
<b>実績の推移</b>								
	事項名	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
	キャンプ参加者	64	76	73	80	102	77	52
	子ども会大会参加者	281名	245名	160名	114名	248名	144名	
	子ども会大会参加団体		10団体	9団体	18団体	7団体	9団体	

# 事務事業分析シート

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成16年度（決算）		平成17年度（決算）		平成18年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	旅費	職員旅費	14	職員旅費	10	職員旅費	10
	負担金補助	少年キャンプ	1,670	少年キャンプ	948	少年キャンプ	123
		職員参加負担金	38	職員参加負担金	14	職員参加負担金	38
		子ども会大会	20	子ども会大会	20	子ども会大会	20

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値（22年度）	
標	① キャンプ参加者数（参加者/定員）	102名 (127.5%)	77名 (96.3%)	80名	100%	
	② キャンプ参加育成者数	25名	20名	20名	20名	
	③ キャンプ参加者シニアリーダー	5名	5名	5名	10名	

問題点・課題	異年齢交流がキャンプの目的の一つであるが、年少の子どもの面倒をみたり、班のリーダーになるべき高学年や中学生の参加が少なく、3,4年生の参加が多い。 キャンプの基本は集団行動及び自分のことは自分でやるだが、集合時間に遅れたり身の回りのことが出来ない子がいる。特に初めて参加する3年生に多い。またプログラムも時間に追われる面がある。 若手の育成者（シニアリーダー）が少ない。
他区の実況	（実施 22 区 未実施 区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成19年度に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	他の宿泊研修と日程が重ならないようにして高学年の参加者を確保する。またキャンプに密接に関わるチャレンジ共和国マスターコースの内容をよく考え中学生の参加者を増やす。	7月に実施すると、まるかじりや、ワールドスクールとのバッティングを防げる。（特にワールドスクールは6年生の参加に影響する） チャレンジ共和国マスターコースの参加者が増えると6年生や中学生の参加者の裾野が増える。
②	今年度高校生が5人も新加入した若手育成者（シニアリーダー）や継続して少年教室に参加している中学生に対し、野外活動や荒少連の活動に理解がさらに深まるように啓発に努めていく。	中学生参加者が卒業してシニアリーダーに加入していき、若手育成者が増えていく
③		

事務事業の優先度	優先度についての説明・意見等
B	子どもに野外活動等を行う機会を提供し、優先度が高い。

議会（要旨）質問状況	
------------	--

# 事務事業分析シート

No1

事務事業名	少年教室	部課名	教育委員会社会教育課	課長名	阿部 忠資
		担当者名	新見 英信	内線	3354
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード(18年度)	少年教室(44-50-50-01)				
事務事業の種類	○新規事業(○19年度 ○18年度)		○建設事業	●それ以外の継続事業	
開始年度	○昭和 ●平成	5年度	根拠		
終期設定	○有 ●無	年度	法令等		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	産業・教育・文化			
	政策	心身ともに健やかな子どもの育成			
	施策	体験活動の推進			
目的	日頃自ら物を作ったり、汗をかくという直接体験が不足しがちな現代の子どもたちを対象に学校や家庭では体験できない様々な体験教室を開催し、発見の喜びや「自主性・創造性」を伸ばす機会を提供する。また異学年交流や学校以外の友達をつくり、地域での自発的な活動の基礎とする。				
対象者等	1 チャレンジ共和国 エンジョイコース区内在住在学の小3~小6 マスターコース同中学生・希望する小6 2 少年少女体験教室 区内在住在学の小学生 3 中学生ロボコン 区内在住在学の中学生 4 合宿通学 (別紙参照)				
内容	1 チャレンジ共和国 荒少連や青少委との企画会議で内容を決定。 学校へのチラシ配布及び区報掲載にて参加者募集 平成17年度・エンジョイコース(定員100名) ゲームで遊ぼう、飯盒でご飯を炊こう、野外料理、ピロポロ大会・マスターコース(定員20名) ゲームで遊ぼう、ダッチオープンにチャレンジ、ピロポロ講習会、ピロポロ大会 2 少年少女体験教室 協力機関である航空高専や荒川工業と内容調整をしチラシ配布や区報掲載で参加者募集 平成17年度 6月18日、10月1日親子でペットボトルロケットを作って飛ばそう(定員40組・航空高専) 12月10日、荒工おもしろ教室(定員3コース計42名) 3 中学生ロボットコンテスト ロボット作製と競技会。協力機関である航空高専、共催北区と内容調整後チラシ配布や区報掲載で参加者募集(定員50名) 平成17年度 平成17年12月17日~1月15日(全5回) 荒川区産業展でロボットコンテスト実施 4 合宿通学 (別添参照)				
経過	<ul style="list-style-type: none"> <li>少年教室(チャレンジ共和国): 昭和59年~</li> <li>少年少女体験教室: 平成5年~</li> <li>荒工おもしろ教室: 平成12年度~</li> <li>ペットボトルロケット(高専おもしろ教室): 平成13年度~</li> <li>中学生ロボコン: 平成13年度~</li> <li>合宿通学: 平成11年より試行的に実施、平成13年より実行委員会形式で実施</li> </ul>				
必要性	現代の子どもは体験不足により集団行動や協調性が苦手な子どもが多くなっている、よって教育委員会により子どもの体験する機会を増やすため、また興味や関心を広げるためにも必要である。				
実施方法	(直営) 一部委託 全部委託 (直営の場合) 常勤 非常勤 臨時職員 「チャレンジ共和国」共催: 荒川区少年団体指導者連絡会、荒川区教育委員会 協力: 青少年委員連絡会 「少年少女体験教室」主催: 荒川区教育委員会 協力: 荒川工業、航空高専 「中学生ロボコン」共催: 荒川区、北区教育委員会、自然科学フォーラム 協力: 航空高専 「合宿通学」主催: 合宿通学実行委員会				

予算・決算額等の推移	(単位: 千円)							
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
予算額	646	745	948	1,407	1,224	1,424	1,334	
①決算額(18年度は見込み)	512	741	747	875	1,002	949	1,334	
②人件費						7,326		
【事務分担量】(%)						85		
合計(①+②)	512	741	747	875	1,002	8,275	1,334	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	512	741	747	875	1,002	8,275	1,334	
実績の推移	事項名	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
	チャレンジ共和国	91名	68名	127名	140名	139名	77名	131名
	少年少女体験教室	335名	374名	179名	257名	173名	145名	
	中学生ロボコン	33名	33名	47名	59名	74名	61名	
	合宿通学	37名/2校	95名/4校	146名/6校	173名/7校	185名/9校	181名/8校	8校

# 事務事業分析シート

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成16年度（決算）		平成17年度（決算）		平成18年度（予算）		
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	
報償費	チャレンジ・合宿謝		66	チャレンジ・合宿謝	45	チャレンジ・合宿謝	90	
	ロボコン謝礼		75	ロボコン謝礼	75	ロボコン謝礼	215	
	一般需用	チャレンジ共和国		42	チャレンジ共和国	5	チャレンジ共和国	63
		中学生ロボコン		94	中学生ロボコン	111	中学生ロボコン	120
		少年少女体験教室		56	少年少女体験教室	44	少年少女体験教室	32
	負担金補	合宿通学事業補助金		669	合宿通学事業補助金	669	合宿通学事業補助金	810
	使用料	少年少女体験教室			少年少女体験教室		少年少女体験教室	4

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値	
標	① チャレンジ共和国参加者数	139名 (115.8%)	154名 (128.3%)	116名 (96.6%)	120名 100%	参加者数/定員
	② 少年少女体験教室 荒工おもしろ教室	39名 (92.9%)	27名 (64.3%)	30名	80%以上	定員3コース計42人
	③ 中学生ロボコン参加者数	73名	61名	60名	60名	指導学生・施設対応限度定員数

問題点・課題	<p>キャパシティ等の関係で各講座とも定員を設けているが、定員を超える場合が多い。共催団体や協力機関と調整し、なるべく受け入れられるよう配慮している。また逆に参加者が思うように集まらない講座もある。定員や周知方法等一考を要す。</p> <p>また育成者（指導学生も含めて）の人数を確保していかなければならない。</p> <p>合宿通学の実施にあたって、子どもの生活を支援する立場としてボランティアに参加してもらっているが、各実行委員会とも宿泊を伴うため、ボランティアの確保がなかなか難しい状況である。また各実施校とも参加希望者は多いものの、会場の広さ等の関係で定員を10～30名程度にせざるを得ない状況である。</p>
他区の実況	<p>（実施区 未実施区）</p> <p>合宿通学は2区（江東区 江戸川区）</p>

問題点・課題の改善策検討		
	平成19年度に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	定員については関係機関との事前調整をして、会場や実施回数や、実施時期を再考して可能な限り希望者を受入れていくようにしたい。定員が少ないため周知方法が区報のみになる講座があるが、会場の近隣小学校へのチラシ配布や、公共施設へのチラシ配布などを考えていく。	より多くの児童・生徒が体験学習に参加する。
②	育成者や指導学生について、かつてペットボトルロケット教室で指導学生として中学生ボランティアを導入したこともあるので可能かどうか検討する。また将来の育成者確保のため荒少連のシニアリーダー部の育成に関わることができる部分があったら積極的に関わる。	指導者や育成者が増えていく。それに伴い参加者への目も行き届き、講座の定員を増やせる可能性がでてくる。
③		

事務事業の優先度	優先度についての説明・意見等
B	子どもに多様な体験をさせる意味で、優先度が高い。

議会（要旨）質問状況	
------------	--

# 事務事業分析シート

No1

事務事業名	合宿通学	部課名	教育委員会社会教育課	課長名	阿部 忠資
		担当者名	佐藤恵理	内線	3354
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（18年度）	少年教室（44-50-50-01）				
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 19年度 ○ 18年度）		○ 建設事業 ● それ以外の継続事業		
開始年度	○ 昭和 ● 平成	11 年度	根拠法令等	荒川区社会教育関係団体補助金交付要綱	
終期設定	○ 有 ● 無	年度			
実施基準	法令基準内	都基準内	（区独自基準）	計画区分	（計画） 非計画
行政評価事業体系	分野	産業・教育・文化			
	政策	心身ともに健やかな子供の育成			
	施策	体験活動の推進			
目的	子どもたちが親元を離れ、異年齢の中での共同生活や地域での体験活動をしながら通学することにより、家庭の大切さを認識するとともに、子ども同士のふれあいや大人とのコミュニケーションの中から人間関係を深め、生きることに実感や喜びを感じるにより「生きる力」をつける。				
対象者等	各実施校の4～6年の児童。				
内容	<p>○各実施校単位で町会、PTA、青少年委員、青少年対策地区委員、商店街などによる実行委員会を組織し、企画・運営にあたる。</p> <p>○区は、実行委員会に対し補助金を助成</p> <p>○基本スケジュール</p> <p style="padding-left: 20px;">2泊3日又は3泊4日</p> <p style="padding-left: 20px;">※この間2～4人のボランティアが共に宿泊し、買い物、食事づくりなどにおいて支援をおこなう。</p>				
経過	<p>平成11年度に、都内で初めて尾久小学校で試験的に実施。 学校、町会、青少年委員、青少年対策地区委員、商店街で実行委員会を組織し運営。</p> <p>平成12年度、さらに峡田小学校を加え2校で実施。</p> <p>平成13年度から、各校の実行委員会に対する補助金交付を行い、学校と地域で自主的に開催するようになる。</p> <p>平成17年度8校で実施。</p>				
必要性	参加児童からは、地域での体験活動や買い物などの実体験を通し、地域を今まで以上に知ることができ、また、地域の大人とのコミュニケーションを取る機会になった、保護者や地域住民からは児童が自主的な活動をすることで自律意識が強まる、また地域の方や保護者への感謝の気持ちが新たに芽生えた、など大変好評で大きな効果が期待できる事業であるため必要性は高い。				
実施方法	<p>（<u>直営</u> 一部委託 全部委託） （直営の場合 <u>常勤</u> 非常勤 臨時職員）</p> <p>各実施校単位で組織した実行委員会（町会、PTA、青少年委員、青少年対策地区委員、商店街など）により実施。</p>				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
予算額	646	745	948	800	700	900	810	
①決算額（18年度は見込み）	512	741	747	522	669	669	800	
②人件費						1,245		
【事務分担当量】（%）						20		
合計（①+②）	512	741	747	522	669	1,914	800	
国（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0	
都（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0	
その他（特定財源）	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源	512	741	747	522	669	1,914	800	
実績の推移	事項名	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
	実施校	2	4	6	7	9	8	8
	参加者数	37	95	146	173	185	181	180

# 事務事業分析シート

No2

予算・決算 主要項目	節・細節	平成16年度（決算）		平成17年度（決算）		平成18年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	負担金補助及び交付金	その他の補助及び交付金	669	その他の補助及び交付金	669	その他の補助及び交付金	810

指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値 (22年度)	
①	実施率	39.1 9校	34.7 8校	34.7 8校	52.1 12校	実施校数／全小学校数
②	参加率	14.6	15.0	16.3	20.0	全参加者数／全児童数 (参加校・対象学年)
③						

問題点・課題	<p>◎学校により児童数にばらつきがあるため、児童数の少ない学校では異年齢や集団で生活するという体験が難しくかったり、実施自体が危ぶまれるなどの問題が生じている。また、児童数の多い学校では、参加希望者が多すぎて、参加できない者が出ている。</p> <p>◎合宿通学の実施にあたって、子どもの生活を支援する宿泊を伴うボランティアに参加してもらっているが、各実行委員会ともボランティアの確保がなかなか難しい状況である。</p>
実施状況	<p>（実施 2 区 未実施 19 区）</p> <p>実施中・・・江東・江戸川 平成18年度実施予定 台東区</p>

問題点・課題の改善策検討		
	平成19年度に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	既実施校の具体的な運営状況などを載せた「合宿通学実施マニュアル」を作成し、配布する。	他の実施校の実施内容を参考にしてもらい実施内容の充実を図る。また新たな実施校を増やす。
②	合宿通学参加児童が卒業後に宿泊ボランティアや実行委員として活動するよう、学校及び参加児童に呼びかける。	実施校及び地域に定着した事業となる。
③	地元の首都大学や学校の教育実習生などにボランティアとしての協力要請をする。	福祉や教育関係者を目指す若者等のボランティアを確保できる。 ボランティアにとっては今後の活動に生かせる充実した体験をすることができる。

事務事業の優先度	優先度についての説明・意見等
B	子どもに貴重な体験活動を提供する場として、必要性が高い。

議会 （要旨） 状況	
------------------	--

# 事務事業分析シート

No1

事務事業名	伝統文化こども教室	部課名	教育委員会社会教育課	課長名	阿部 忠資
		担当者名	木佐美祥治	内線	3355
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード	伝統文化こども教室				
事務事業の種類	○新規事業 (○19年度 ○18年度)      ○建設事業      ●それ以外の継続事業				
開始年度	○昭和 ●平成	15年度	根拠法令等	伝統文化こども教室実施要項	
終期設定	○有 ●無	年度			
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 (非計画)
行政評価事業体系	分野	産業・教育・文化			
	政策	地域に根ざした生涯学習の推進			
	施策	生涯学習活動の支援			
目的	日本の伝統文化を子どもたちに体験・習得させ、次世代への継承を確かなものとして発展させることを目的とする。				
対象者等	参加対象の範囲 小・中学生      参加人数 原則として10人以上      実施回数 原則として10回以上				
内容	<p>「伝統文化こども教室」事業は文化庁より財団法人 伝統文化活性化国民協会に委嘱され、平成15年度にスタートした。同財団より東京都生活文化局を経由して区に募集依頼があり、区内の応募要件を満たす組織・団体に周知のうえ、実施希望団体の申請書を都に提出する。</p> <p>実施に当たっては、各会場の予約をはじめ、区報掲載やポスター・チラシ等を配布して、区もバックアップする。主催官庁は文化庁</p>				
経過	<p>《18年度採択団体》 4団体</p> <p>①伝統文化いけばなこども教室(荒川区華道茶道文化会)</p> <p>②茶道こども教室(荒川区華道茶道文化会)</p> <p>③こどものための日本舞踊教室(荒川区日本舞踊連盟)</p> <p>④煎茶こども教室(荒川煎茶こども教室実行委員会)</p> <p>《17年度採択団体》 3団体</p> <p>①茶道こども教室(荒川区華道茶道文化会)</p> <p>②こどものための日本舞踊教室(荒川区日本舞踊連盟)</p> <p>③煎茶こども教室(荒川煎茶こども教室実行委員会)</p> <p>《16年度採択団体》 1団体</p> <p>①日本棋院荒川支部</p>				
必要性	日本の伝統文化を現代の子どもたちに体験させる意義は大きい。				
実施方法	( (直営) 一部委託 全部委託 )      ( 直営の場合 (常勤) 非常勤 臨時職員 )				

予算・決算額等の推移	(単位:千円)							
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
予算額				—	—	—	—	
①決算額(18年度は見込み)				—	—	—	—	
②人件費						86		
【事務分担当】 (%)						1		
合計(①+②)	0	0	0	0	0	0	0	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	0	0	0	0	0	0	0	
実績の推移	事項名	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
	採択団体数				1	1	3	4

# 事務事業分析シート

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成16年度(決算)		平成17年度(決算)		平成18年度(予算)	
		主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値	
①	採択団体数	1	3	4	4	
②						
③						

問題点・課題	申請書類の作成等に手間がかかり開催団体の負担になっている。 財団からの補助金の交付が遅い。
他区の実施状況	( 実施 9 区                      未実施                      区 ) 渋谷区 杉並区 豊島区 北区 板橋区 品川区 練馬区 足立区 葛飾区

問題点・課題の改善策検討		
	平成19年度に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	実施希望団体が当初に提出する申請書類の作成や、財団との対応を区もしっかりサポートする。	書類作成等の負担軽減により、希望団体の促進を図る。
②		
③		

施策評価結果(優先度)	優先度についての説明、所属長意見等
C	日本の伝統を子どもたちに伝えていくため今後も継続する。

議会(要旨)状況	
----------	--



# 事務事業分析シート

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成16年度（決算）		平成17年度（決算）		平成18年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報消費	指導員謝礼金		3,890	指導員謝礼	3,730	指導員謝礼
食料費	実施委員会賄		70	実施委員会賄	70	実施委員会賄	0
一般需用費	消耗品費		488	消耗品費	665	消耗品費	623
一般需用費	物品修繕費		29	物品修繕費	17	物品修繕費	92
備品購入費	遊具その他購入		350	遊具その他購入	343	遊具その他購入	200
備品購入費						倉庫購入費	160

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値	
①	年間利用延べ人数（名）	31,893	34,309	38,000	44,400	
②	実施回数（回） [実施1回あたりの利用人数（名）]	1,945 [16]	1,865 [18]	2,117 [18]	2,200 [20]	
③	1名が1回利用する際に係る費用（円）	155	144	139	120	

問題点・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校庭を開放しても、利用人数が少ないという課題がある。</li> <li>・ 利用者及び指導員の安全対策の問題がある。一部の学校では、校門を閉め、利用者が出入りをする際のみ開閉するという方法をとったり、さすまたや防犯スプレーを常備し、指導員を3名にする等の対策もとっている。しかし、全ての学校でそういった対策がとれていないのが現状である。</li> <li>・ 校庭を芝生化した学校については、芝生養成期間中は校庭を利用することができないため、実施回数の減少につながる。</li> </ul>
実施状況	（実施 22 区 未実施 0 区）

問題点・課題の改善策検討		
	平成19年度に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	区立小学校（23校）保護者全員に校庭利用の目的や実施方法を記載したチラシを配布する。	保護者に校庭利用の目的を理解してもらい、利用者の増加につなげる。また、保護者も児童と共に利用してもらい、児童の心身の健全育成を促す。
②	校庭利用事業中の安全対策について、校庭利用実施委員会連絡会で話し合い、校門の開閉等安全対策を徹底する。	利用者により安全な状況で校庭という遊び場を提供する。
③		

事務事業の優先度	優先度についての説明・意見等
C	児童に安全な遊び場を提供している。

議会質問状況（要旨）	
------------	--

# 事務事業分析シート

No1

<b>事務事業名</b>	青少年吹奏楽コンサート	<b>部課名</b>	教育委員会社会教育課	<b>課長名</b>	阿部 忠資
		<b>担当者名</b>	木佐美祥治	<b>内線</b>	3355
<b>事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード</b>	青少年吹奏楽コンサート(44-60-50-01)				
<b>事務事業の種類</b>	○新規事業 (○19年度 ○18年度)      ○建設事業      ●それ以外の継続事業				
<b>開始年度</b>	●昭和 ○平成	60年度	<b>根拠</b>		
<b>終期設定</b>	○有 ●無	年度	<b>法令等</b>		
<b>実施基準</b>	法令基準内	都基準内	区独自基準	<b>計画区分</b>	計画 (非計画)
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	産業・教育・文化			
	<b>政策</b>	地域に根ざした生涯学習の推進			
	<b>施策</b>	生涯学習活動の支援			
<b>目的</b>	小・中学校で吹奏楽に接し、在校生と卒業後も活動を続けている青少年に発表の場を与えることにより、日頃の練習成果の励みとする。これにより、青少年を中心とする区民の音楽活動が一層盛んになり、区民の文化意識の高揚を図る。				
<b>対象者等</b>	青少年及び一般区民				
<b>内容</b>	1. 主催 荒川区に吹奏楽を育てる会(代表:伊東やす子)・荒川区教育委員会 2. 実施日 18年3月26日 毎年3月末の日曜日を予定 3. 場所 サンパール荒川(大ホール) 4. 参加団体 ①社会教育団体:5団体、②中学校吹奏楽部を母体とする団体:3団体、③小学校金管バンド:3団体 5. 入場者数 1200名 毎年、同程度				
<b>経過</b>	昭和56年(第1回)~「荒川区民におくる吹奏楽の夕べ」3団体参加 自主事業として実施 昭和60年~教育委員会主催として「荒川区民におくる吹奏楽の夕べ」を実施 6団体参加 平成17年度 11団体参加				
<b>必要性</b>	継続して発表の場を与え支援することは荒川区に吹奏楽の愛好家を育てていくために必要である。				
<b>実施方法</b>	(直営) 一部委託 全部委託 ) (直営の場合 (常勤) 非常勤 臨時職員 ) 主催 荒川区に吹奏楽を育てる会(代表:伊東やす子)・荒川区教育委員会				

		(単位:千円)						
		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
<b>予算・決算額等の推移</b>	<b>予算額</b>	617	580	580	560	468	468	468
	①決算額(18年度は見込み)	496	528	509	501	418	355	468
	②人件費						1,034	
	【事務分担量】(%)						12	
	合計(①+②)	496	528	509	501	418	1,389	468
	国(特定財源)							
	都(特定財源)							
その他(特定財源)								
一般財源	496	528	509	501	418	1,389	468	
<b>実績の推移</b>	<b>事項名</b>	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
	出演団体数	10	11	11	12	11	11	
	入場者数	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	

# 事務事業分析シート

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成16年度(決算)		平成17年度(決算)		平成18年度(予算)	
		主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)
	一般需用費	ポスター	17	ポスター	11	ポスター	17
	委託料	照明	65	照明	66	照明	66
	使用料・賃	会場費・トラック	336	会場費・トラック	279	会場費・トラック	385

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値	
①	出演団体数	11	11	11	11	現状参加数の維持
②						
③						

問題点・課題	①運営の一切を担ってきた伊東先生の高齢化に伴い、調整、運営を行う後継者を育成することが急務である。
他区の実況	( 実施 区 未実施 区 )

問題点・課題の改善策検討		
	平成19年度に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	長く「荒川区に吹奏楽を育てる会」代表の伊東やす子先生にその運営を頼ってきた「吹奏楽の夕べ」であるが、先生の負担を少しでも減らし、参加団体の協力で自主的に運営できるように指導・助言していく必要がある。	区内の多くの吹奏楽愛好家に未長く「吹奏楽の夕べ」を楽しんでもらうことができる。
②		
③		

事務事業の優先度	優先度についての説明・意見等
C	青少年の音楽活動の成果を発表する場として、継続して実施する。

議会(要旨)状況	
----------	--

# 事務事業分析シート

No1

<b>事務事業名</b>	PTA研修会	<b>部課名</b>	教育委員会事務局社会教育課	<b>課長名</b>	阿部忠資
		<b>担当者名</b>	荒川輝雅	<b>内線</b>	3355
<b>事務事業を構成する小事業名及び 予算事業コード</b>	PTA研修会(44-65-50-01)				
<b>事務事業の種類</b>	○ 新規事業 (○ 19年度 ○ 18年度)      ○ 建設事業      ● それ以外の継続事業				
<b>開始年度</b>	● 昭和 ○ 平成      39 年度		<b>根拠</b>		
<b>終期設定</b>	○ 有 ● 無      年度		<b>法令等</b>		
<b>実施基準</b>	法令基準内      都基準内      (区独自基準)		<b>計画区分</b>	計画 (非計画)	
<b>行政評価 事業体系</b>	<b>分野</b>	産業・教育・文化			
	<b>政策</b>	心身ともに健やかな子どもの育成			
	<b>施策</b>	地域と連携した学校づくり			
<b>目的</b>	区立小・中学校のPTA活動のあり方について理解するとともに、その活動の充実と円滑な運営を図る。				
<b>対象者等</b>	荒川区立小・中学校のPTA				
<b>内容</b>	1 PTA会長会(年3回) 第1回懇談会テーマ検討 第2回「区教委との懇談会」 第3回PTA事業の報告ほか 2 PTA広報研修会(2回 午前1回・夜間1回 平成18年5月16日 22日) PTA広報紙の作り方研修 3 PTA講演会(平成18年7月8日開催) PTAの成人教育部会にて講師や内容を決定。 「愛の力で子どもは育つ～里子とあるいた21年」 講師 坂本洋子 4 PTA連合会補助 東京都小学校PTA協議会会費 東京都中学校PTA協議会会費を補助する。 5 PTA地区別研修会 4地区に分けて実施。運営や企画を地区別の当番校が行なう				
<b>経過</b>	PTA講演会 平成14年度講演会テーマ「子どもの社会力と親の責任」 講師 筑波大学人間学類長 門脇 厚司 教育セミナー「生きる力 その源は感性だ！子どもの成長・生理学」 九州大学名誉教授 井口 潔 「善く生きようとしている子どもたち」 慶応大学名誉教授 村井 実 「ミニコンサート」劉 薇 井口 潔 平成15年度講演会テーマ「夢をもって生きる子どもに育てるには」 講師:法政大学評議員 小川 純一郎 平成16年度講演会テーマ「46歳の転機～思い立ったらすぐ行動」 講師:学芸員 中島 美子 平成17年度講演会テーマ「環境はすべての命の基盤」 講師:環境文明21 藤村 コノエ				
<b>必要性</b>	懇談会 区教委と区立小・中PTAとの話し合いの場を持つことによって、現状での問題点を把握し、今後の活動について検討を行い相互理解を図るため必要。 PTA広報研修会 PTAの広報の意義と作成について理解し、各校PTA広報紙の充実を図るため必要。 PTA講演会 講演を通してPTA会員個々の啓発を図る。また、区民の参加も募るため地域の教育力の向上にもつながるため必要。 PTA地区別研修会 各地域にあったテーマを設定し研修を行うことができるため必要。				
<b>実施方法</b>	( 直営 ) 一部委託 全部委託 )      ( 直営の場合 ) ( 常勤 ) 非常勤 臨時職員 ) 荒川区PTA連合会と共催で実施				

	(単位:千円)							
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
<b>予算・決算額等の推移</b>	1,070	1,474	1,551	970	840	737	737	
予算額	1,070	1,474	1,551	970	840	737	737	
①決算額(18年度は見込み)	755	1,255	1,147	668	595	613	737	
②人件費						3,924		
【事務分担量】(%)						60		
合計(①+②)	755	1,255	1,551	970	840	737	737	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	755	1,255	1,551	970	840	737	737	
<b>実績の推移</b>								
<b>事項名</b>	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
広報研修会	214名	178名	190名	199名	161名	168名	155名	
講演会	1473名	910名	542名	670名	553名	650名		
地区別研修会	682名	453名	355名	538名	389名	377名		

# 事務事業分析シート

No2

予算・決算主要項目	節・細節	平成16年度(決算)		平成17年度(決算)		平成18年度(予算)	
		主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)	主な事項	金額(千円)
報償費 食料費 一般需用費 役務費 使用料 負担金補助	講師謝礼	講師謝礼	159	講師謝礼	199	講師謝礼	230
	講演会実行委員賄い	講演会実行委員賄い	5	講演会実行委員賄い	5	講演会実行委員賄い	5
	事務用品・講演会花	事務用品・講演会花	52	事務用品・講演会花	22	事務用品・講演会花	82
	講演会吊看板	講演会吊看板	68	講演会吊看板	68	講演会吊看板	69
	サンパール荒川等使用料	サンパール荒川等使用料	101	サンパール荒川等使用料	96	サンパール荒川等使用料	132
	荒P連補助金	荒P連補助金	210	荒P連補助金	214	荒P連補助金	219

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値	
標	① 参加者数(講演会)	553名	652名	650名	700名	
	② アンケート回収数(回収率)	330(59.7%)	252(42%)	300(46%)	50%以上	回収数/参加者数
	③					

問題点・課題	<p>研修会や講演会の参加者に動員されて参加しているという雰囲気がある。 小学生と中学生の保護者では関心を示すポイント・テーマが異なる場合がある。 PTA講演会は区報で周知し、区民の参加も呼びかけているが参加は少ない。 広報研修会の実施時期が、1回目の広報部会終了後となっている。</p>
他区の実施状況	( 実施 22 区 未実施 区 )

問題点・課題の改善策検討		
	平成19年度に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	研修テーマの決定に関してはPTAと話し合い、現状直面している課題など、保護者が興味・関心を持っているテーマを取りあげていく。また、必要に応じて小・中学校ごとの分委会を設定する。	より多くの保護者が、すすんで参加してもらえる研修会にできる。
②	PTA講演会については区報やホームページなどの告知の他、区内施設にチラシの配付や地域団体への呼びかけを行う。	地域の方々の参加が増え、地域の教育力の向上につながる。
③	PTA広報研修会の時期をゴールデンウィーク前後に早める。	各校の最初の広報活動に間に合うように開催することにより、研修会の内容を広報作りに取り入れやすくなる。

事務事業の優先度	優先度についての説明・意見等
C	保護者と学校の連携を図り、保護者の意識啓発等を行うために必要な事業である。

議会(要旨)状況	
----------	--

# 事務事業分析シート

No1

<b>事務事業名</b>	小中学校の公開講座	<b>部課名</b>	教育委員会社会教育課	<b>課長名</b>	阿部 忠資
		<b>担当者名</b>	木佐美祥治	<b>内線</b>	3355
<b>事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード</b>	小中学校の公開講座 (44-65-75-01)				
<b>事務事業の種類</b>	○ 新規事業 (○ 19年度 ○ 18年度)		○ 建設事業 ● それ以外の継続事業		
<b>開始年度</b>	○ 昭和 ● 平成	6 年度	<b>根拠法令等</b>	荒川区立小中学校公開講座実施要綱	
<b>終期設定</b>	○ 有 ● 無	年度			
<b>実施基準</b>	法令基準内	都基準内	<u>区独自基準</u>	<b>計画区分</b>	計画 (非計画)
<b>行政評価事業体系</b>	<b>分野</b>	産業・教育・文化			
	<b>政策</b>	地域に根ざした生涯学習の推進			
	<b>施策</b>	生涯学習活動の支援			
<b>目的</b>	区内にある小中学校は、地域的には生涯学習の実施場所として区民の身近にあり、多様な人材も存在しており、学習機会の提供の場として大変重要である。小中学校の教師が講師となり、「小中学校の公開講座」を開催することで区民に対して身近な場で、多様な学習機会の提供することを目的とする。				
<b>対象者等</b>	18歳以上の区民一般				
<b>内容</b>	<p>毎年4月に実施希望校を募集し、小中学校の教師が講師となり、夜間や学校休業日などの通常の勤務時間外に区民を対象とした講座を開催する。</p> <p>[平成17年度] &lt;合計&gt; 9校、11講座 各全5回</p> <p>&lt;小学校&gt; 6校、7講座 五峡小:楽しく歌おう 三日小:初心者のためのバドミントン教室 二峡小:初級者・中級者のための囲碁教室 瑞光小:初級 箏教室、絵画教室 ひぐらし小:パソコン教室 六日小:初めてのコンピュータ</p> <p>&lt;中学校&gt; 3校、4講座 七中:本当にはじめての人のパソコン教室 一中:初級パソコン教室、木版画で年賀状をつくろう 四中:初めての篆刻づくり</p>				
<b>経過</b>	<p>[14年度] 講座数は15講座に。チャレンジサタデー教室(公開講座)を含む。</p> <p>[15年度] 15講座予定で募集をしたが、開催校が予定数に達さないため、追加募集する。</p> <p>[16年度] 12講座開催</p> <p>[17年度] 11講座開催</p>				
<b>必要性</b>	ライフスタイルの変化や価値観が多様化する中、身近な場で、区民の生涯学習に対する要望に応じて多様な学習機会を提供する必要性は高い。				
<b>実施方法</b>	<p>( <u>直営</u> 一部委託 全部委託 ) ( 直営の場合 <u>常勤</u> 非常勤 臨時職員 )</p> <p>&lt;主 催&gt; 荒川区教育委員会、各小中学校</p> <p>&lt;実施方法&gt; 各小中学校が開催</p>				

	(単位:千円)							
		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
<b>予算・決算額等の推移</b>	予算額	1,035	572	1,063	1,060	850	850	840
	①決算額(18年度は見込み)	1,013	470	615	750	840	810	840
	②人件費						1,551	
	【事務分担量】(%)						18	
	合計(①+②)	1,013	470	615	750	840	2,361	840
	国(特定財源)							
	都(特定財源)							
	その他(特定財源)							
	一般財源	1,013	470	615	750	840	2,361	840
<b>実績の推移</b>	<b>事項名</b>	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
	<実施校> 小学校	6校	4校	5校	7校	7校	6校	6校
	中学校	4校	3校	4校	2校	3校	3校	4校
	講座数	14講座	7講座	10講座	11講座	12講座	11講座	10講座
	受講者数	248人	121人	161人	184人	215人	233人	

# 事務事業分析シート

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成16年度(決算)		平成17年度(決算)		平成18年度(予算)			
		主な事項		主な事項		主な事項			
		金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)		
8 報償費	講師謝礼	600,000	840	講師謝礼	550,000	810	講師謝礼	600,000	840
	助手謝礼	240,000		助手謝礼	260,000		助手謝礼	240,000	
	11(4)一般需用費	講座資料等消耗品	0	0	講座資料等消耗品	0	0	講座資料等消耗品	0

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移				指標に関する説明
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	目標値	
①	講座数	12	11	10	12	
②	実施校	10	9	10	10	
③						

問題点・課題	<p>パソコン講座は区民に人気があるが、初心者を対象とする場合助手が1名では対応が難しい。開催する講座がやや固定化されてきている。</p>
他区の実施状況	<p>( 実施 12 区 未実施 10 区 )</p> <p>千代田区、港区、文京区、品川区、大田区、世田谷区、渋谷区、杉並区、豊島区、練馬区、板橋区、江東区</p>

問題点・課題の改善策検討		
	平成19年度に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
①	区民の要望が高い各種のパソコン教室の助手を増員する。	効果的な事業執行ができる。
②	実施していない学校などに呼びかけ新たな講座の開講を促す。	多様な学習機会を提供できる。
③		

事務事業の優先度	優先度についての説明・意見等
C	区民の身近な場で多様な学習機会を提供するため、継続して実施する。

議会(要旨)質問状況	
------------	--